



サツマイモのつる切り



マルチはがし

10月2日 収穫準備

まちづくり役員と農園ボランティア19名で、翌週行われる収穫の準備でサツマイモと里芋のつる切りやマルチはがし等を行いました。
1,200本のサツマイモのつると里芋を1本1本鎌で切り粉碎。マルチと防草シートは、再利用するため丁寧に巻き保管。草刈りもしていただきました。



里芋畑

10月9日 お芋さん収穫

いいなっつ農園は「土に触れながら、苗を植え、育て、収穫し、家庭で食べてもらう」「世代を超えての交流」を目的として始まり今年で12回目。

コロナ禍、参加者の健康・安全を考え今年は収穫祭としては中止。サツマイモ掘りは、5月の苗植えに申込みされた家族の代表者1名に収穫をしていただきました。

苗植え・世代間交流はできませんでしたが、ご家庭で美味しく食べていただけたことでしょう。

朝晩涼しくなりましたが、日中は31℃!と暑い中マスクをしてお芋掘りでした。

稲子連役員・長寿会・一般申込代表者を3部に分けて、1,200本のサツマイモと約120株の里芋を63人で収穫しました。広大な農園なので役員だけではとても大変。ご自分の収穫が終わっても、遅くまで手伝ってくださった方々に感謝いたします。ありがとうございました。



10月18日～22日 地産地消!いいなっつ農園育ちのお芋さん 青空テント販売をしました。

サツマイモは少し大きめですが色つや良く5袋以上買われる人も!大人気の里芋は「ここのは美味しい!」と大評判、初日にはほぼ完売。カボチャも2日目には完売、栗えびす・ロロン等4種類の中から好みの物を選んでみえました。

サツマイモは稲津町内の福祉施設でも有効活用していただきました。

10月13日 ふれあい広場



瑞浪市社会福祉協議会稲津支部主催で「お年寄りのふれあい広場」が開催されました。
例年はお年寄りとお孫さんのふれあい広場と題して、子ども達と地域のお年寄りが、昔の遊びや風船飛ばしをして楽しんでいましたが、感染症対策のため昨年は中止、今年はお年寄りのみの開催となりました。約50名の参加者は楽しいひと時を過ごしました。

1部は健康体操、座ってできるストレッチや手足体操。ふくらはぎの筋肉や指の鍛え方を学びました。2部は警察官による講話「特殊詐欺」について、二重電話詐欺をドラマ仕立てに作成されたスライドはとても分かりやすく、笑いもこぼれていました。



ii-nuts!!ギャラリー

小・中・高・児童生徒
作品展を随時開催中。

みんなのレシピ

秋に収穫したサツマイモやカボチャを使用し、家で作った料理のレシピや写真をホームページで募集しました。来館者の参考になればと幅60cmの大きな用紙に印刷して、おかずやスイーツなど9種類を掲示しています。
食欲の秋、みなさんも家庭の味を楽しんでください。



11月の稲津さん

何かを見て何に魅せられた?

山崎 楓さん (中3) 山の田2号



東濃信用金庫の第20回とうしん中学生イラストコンクールで、岐阜・愛知県57校、応募総数1,732点の中から優秀賞に選ばれました。

テーマは『笑顔』。「1年生の時も応募しましたが賞は取れませんでした。再度挑戦して、優秀賞をもらい家族も喜んでくれて、友達もすごいねと言ってくれてとても嬉しいです。」

「テーマである『笑顔』の構想はすぐに思いつきましたが、色鉛筆で色を塗るのはとても時間がかかりました。授賞式は母と校長先生の3人で出席しました。審査員のイラストレーター中山尚子さんが稲津の方なのは知っていました。プロの方に見てもらえて嬉しいし、ドキドキしました。」

高校はデザイン科に進み、将来は絵を描く仕事に携わりたいです。」

とすてきな笑顔で話してくれました。

10月17日 第6回 小里川クリーン作戦

社会福祉協議会稲津支部主催

麗澤瑞浪中学高等学校の生徒50名と一般ボランティア35名で小里川沿い約2kmのゴミ拾いをしました。

雨が降り寒い日でしたが、山の田の城山橋付近から下るグループと羽広長慶寺橋から上るグループに分かれて作業開始。道路は比較的綺麗でしたが、可燃ごみ大袋1杯と不燃ごみを拾いました。

稲津町内ではいろんなボランティアさんが清掃活動をしています、人通りの少ない道路では、不法投棄も見受けられます。ゴミ0の稲津にしたいですね。



人口		9月1日現在	10月1日現在	増減
	男	2,088 人	2,081 人	-7
	女	2,160 人	2,157 人	-3
	計	4,248 人	4,238 人	-10
世帯数		1,711 世帯	1,711 世帯	0

小里	不燃ごみ		ビン・缶・ペットボトル・紙類・古着
	11月17日	12月15日	
萩原	11月16日	12月14日	11月25日 12月21日 11月24日 12月20日

館長ノート

囲炉裏

稲津に住み続ける友がいる。定年になつて帰郷してきた友がいる。機会があれば帰ってくる友がいる。月に1度友の自宅で8人ほどが手作りの囲炉裏を囲む。

たわいもない話に花を咲かせ、笑いあい、冗談を言う至福の時間が過ぎていく。決して己の自慢話はしない。小学校・中学校時代の思い出を、同じ話を初めて話すかのようにしやべる。それを初めて聞いたかのように相槌を打つ。『痴呆』と思われるがそうではない。酒の力と囲炉裏の炎で顔を赤く染め、囲炉裏で焼かれた酒の肴を頬張りながら昔を語り合う。炭をおこす友、酒の肴を焼く友など誰に言われることもなく淡々と役割を果たしている。

昔から「親友」という言葉は耳にするがここに集まる友は誰もその言葉の定義など持ち合わせていない。メールひとつでフラットと集まり、奥さんが迎えにくれば千鳥足で楽しそうに「また来るね」と帰っていく。幸いにも誰も欠けることなく続いている。やがて訪れる永遠の別が訪れるまで囲炉裏を囲んで笑いあいたい。新型コロナウイルスの収束とともに再び囲炉裏を囲む日が来ることを願う。

(M)